

作成日 7月13日

ワークショップ進行シート

7月31日 必着
新潟県国際交流協会宛

作成日：2012年7月13日

テーマ 世界がもし100人の村だったら

ファシリテーター 沼上朋恵・良波祥吾・山田 萌・村越千紋・
劉淙・ジェズ・ニコヴァー アデーラ

1. 本テーマの趣旨

100人村の住人になることを通して、世界の現実（文化の多様性、貧富の差を構造的に捉える）を体感しながら、地球に住む一員として30年後の社会のイメージを持つ。

2. 本テーマの目的

地球で起こっている現実にふれ、自分なりに地球に住む一員としてどのような地球社会になっていってほしいか、していきたいかを考えることができる。

3. 本テーマを取り上げる理由

ワークショップを通じて、日常ではなかなか結びつかない自分と地球のつながりについて考えることで、様々な問題を抱える地球をみんなと一緒に守っていく、作っていくという意識を育てていきたい。

4. 活動過程 使用時間90分 参加人数 50名～100名

過程（所要時間）	活動内容（・）とそのねらい（＊）	ファシリテーターの支援（教材、発問、説明、指示）	使用する教材	生徒の予想される反応、その他、注意事項
アイスブレイキング （5分）	「猛獣狩りに行こう」 ＊言葉の文字数でグループ分けするアクティビティを通して、友達同士の交流を楽しむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「猛獣狩りに行こう！」 ・「鉄砲持った」「山を越えよう」とファシリテーターが言う言葉を生徒は復唱する。（リズムカルに） ・ファシリテーターが挙げた動物名の文字数に応じたグループを作る。（例：ライオンは4文字なので4人グループ） 		

<p>導入 (30分) 各ワーク 7分 ×4つのワーク</p>	<p>○世界の言葉で「こんにちは」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割カードに書いてあるあいさつを言いながら同じ挨拶をしている人を探す。 ・仲間を見つけたら座る。 ・仲間が見つからなかったら一か所に集まる。 ・人数が多いグループから挨拶の言葉を聞き、何語か考える。 *どの国の言葉が世界で多いのか学ぶ。 *世界には少数でも多くの言葉があることに気付く。 *多様な言語間の壁を感じる。 *日本語以外の言葉の存在に気付く <p>○世界の人口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口の変化をクイズ形式で学ぶ ・世界の人口の変化をグラフから読みとる *現在の世界の人口はどれくらいなのか、50年前と50年後ではどれくらい差があるのか、過去、現在、未来の人口増加を理解する。 <p>○大陸ごとに分かれてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> *この活動を通し世界の人口の偏りを理解させ、偏りによって生じる様々な問題について理解を深める。 	<p>「カードに書かれてある言葉以外は話さない」</p> <p>「どの挨拶が一番人数が多かったかな」</p> <p>「中国語、スペイン語、英語の順です」</p> <p>「少ないけど、2500人以下の人口で話されている少数言語は3000以上ある」</p> <p>「日本にも少数言語がある」</p> <p>「世界の人口は現在何億人くらいでしょうか」</p> <p>「1960年の世界の人口はどれくらいでしょうか」</p> <p>「みんなが40歳～50歳の時の2060年の世界の人口はどれくらいでしょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口の変化のグラフを見せる。 ・事前に大陸の面積比に応じた長さのひもで輪を作っておく。 ・ファシリテーターは子どもに大陸名が書かれたテープを貼る ・事前に大陸の面積比に応じた長さのひもで輪を作っておく。 ・ファシリテーターの指示で児童・生徒は自分たちの 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割カード ・世界の人口の変化のグラフ（模造紙はパワーポイント） ・ひも ・テープ 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードをもとに仲間を探す。 ・たくさんの人に話しかけ、挨拶を交わしながら親しみをもつ。 ・「見つかった」「見つからない」話しかけられない子や仲間が見つからない子への声掛けをし、支援する。 「英語かな」 「中国かな」 「中国は人口が多いからかな」 「たくさんあるんだ。」 「知らなかった。」 「日本語だけかと思ってた。」 「世界にはこんなにたくさんの人が暮らしているのだね」 「最近50年間でグラフの線が急に高くなっているよ」 「自分たちの大陸は人が多くて狭く感じる」 「こんなにアジアには人がいるんだ」 「人口が多い/少ないで暮らしはどう違うんだろう」 「狭い！」 「北アメリカには人が少ない」
---	---	--	---	---

	<p>○世界の富は誰が持っているの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割カードにしたがって、富裕層、中間層、貧困層のグループに分かれる。 ・貧しいグループは床に座る。豊かなグループは椅子に座る。豊かなグループは貧しいグループの人たちにうちわで煽いでもらう。 ・各グループ分のお茶と人数分のコップを渡す。 ・3つのグループの一人当たりのお茶の量を比較する。 <p>*世界全体の富の配分がどのくらい不公平であるかを体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな気持ちでしたか各グループの数名に感想をいってもらおう。 <p>*富が先進国に集中していること、開発途上国では多くの人口で少ない富をさらに配分しなければいけない現状を知る。</p>	<p>大陸である輪の中に入る。 「アジアの人こっちだよ」 ・ファシリテーターは各大陸の子どもたちに今の状態を聞く。 「他の大陸の友だちと自分がいる大陸はどこが違うかな」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶を富裕層、中間層、貧困層に分配したものを渡し、一人一人に配分させる。 <p>「どんな気持ちでしたかな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶が入ったペットボトル ・透明プラスチックのコップ 	<p>「オセアニアには人が見当たらないよ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの国では国内の貧富の差が大きく、富によるグループ分けは国単位では決められないことを補足説明する。 ・ここでいう富とは所得を意味する。 <p>「限られた人が富を持っているんだ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧しいグループの子どもたちには、世界の現実を知る上で貴重な体験をしているのだ、という励ましの言葉をかける。 ・100人村という架空の村の世界観と現実の世界で起こっていることの区別をはっきり示す。 ・児童・生徒それぞれの多様な文化的背景を尊重すること
--	---	---	--	---

<p>展開 (55分)</p>	<p>○「100人の村」を読む」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フォトランゲージ 「地球家族」から豊かさを考える ・ 30年後の地球社会を模造紙に描いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界がもし100人の村だったら」の本文をファシリテーターが読む。 ・ 「みんなはこの世界の現実を体感してどう思ったかな」 ・ 3～4人ずつのグループに分かれて、三枚一組の写真を選び、それぞれの国名を考える。 ・ 3か国を「住みたい」と思う順番に並べる。グループごとに国名と順位、その理由を発表する。 ・ 「住みたい理由」を参考に、各グループで30年後を理想とする地球社会を絵で描く。描いた模造紙をお互い見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界がもし100人の村だったら」 (プリントで本文を全体に配るもしくはパワーポイントで表示) ・ 「地球家族」のカラーコピー (日本、ブータン、ドイツ、エチオピア、クウェート等の家族や家の様子の写真) ・ ワークシート ・ 模造紙 ・ カラーマジック ・ 色鉛筆など 	
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の振り返りをする 			

作成日 7月13日

5. 会場のセッティング

椅子、机を片付けて広い床を確保する。

6. 使用する教材

紐、模造紙、カラーマジック、お茶4リットル（ペットボトル）、テープ、色鉛筆、透明プラスチックカップ

6. 参考資料

『世界がもし100人の村だったら』（2011） 開発教育協会

『地球家族』（1994）TOTO出版